

令和4年度 岡山県立林野高等学校 具体的な学校経営目標・計画

重点目標	関係分掌	評価基準(評価可能数値)	中間評価	中期進捗状況	年度末評価	年度末達成状況	新年度への課題
1 日本ICT教育 トップランナー校として、さまざまな場面で生徒の自己実現のためにICTを 利活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	教務課	○授業公開週間中、全員の相互授業参観が3回以上になる。その内、1回以上、他教科の授業を参観する。 ○生徒と教員アンケートで、教科・MDPの資質能力の育成に関する項目や評価に関する項目の肯定率が80%以上になる。 ○2年次への科目選択を10月下旬には完了する。×切以降変更希望が出ないように説明、面談を丁寧にする。	B	○生徒アンケートで、「知識・技能を習得できているか」に対しては89%が肯定。80%を下回ったのは10/90科目。「あなたの力が正に評価されているか」に対しては94.5%が肯定。80%を下回ったのは1/90科目であった。 ○科目選択が円滑にできるように資料を更新している。	A	○ICTの研修などを通して相互の取り組みを共有し合い指導力の向上につなげることができた。 ○科目選択は円滑に進めることができた。 ○生徒アンケートで、「知識・技能を習得できているか」に対しては89.3%が肯定。80%を下回ったのは11/90科目。「あなたの力が正に評価されているか」に対しては94.3%が肯定。80%を下回ったのは0/90科目であった。	○新課程の3年次の科目選択が円滑にできるようにする。 ○アンケートの結果を自己分析し、教科内で共有できるようにする。
	進路指導課	○進研模試において各教科のGTZでB以上の生徒が30名以上	B	○キャリアパスポート・活動報告書については学期末に入力及び振り返りの時間を確保できた。 ○学習実態調査では10月末に調査を1回増やすことで、より学習時間の変化を分析しやすくする。教科ごとの目標時間の達成状況など教員間での分析を更に充実させる必要がある。	B	○11月進研模試:1年 国41・数31・英28、2年 国41・数25・英32・地歴33・理36、3年 国28・数11・英24・地歴26・理14(3年数学はIAとII Bの平均、理科は文系基礎科目の平均+理系専門科目の平均)	○学習実態調査の結果を踏まえ、学習時間を増加させる課題の出し方を考える。次年度以降は学習時間を評価基準にしても良い。
	3年次	○生徒および指導する教員全員が実践している。	B	○生徒のChromebookの利用が3年目になり、活動報告書や志望理由書の作成などに活用できている。 ○2学期にChromebookでWi-Fi 利用可能なプリンターが導入され、さらに利便性が高まっている。	A	○生徒は活動の記録や志望理由書の作成、入試の出願にChromebookを有効に利用できた。 ○進路資料の利用や教員間での面談記録の共有にChromebookとWi-Fiプリンターが大いに役立った。	○入試や提出書類の日程管理などへのChromebookの利用。 ○Chromebookの校内目的外使用への対策。
	2年次	○授業評価アンケートにおいて肯定的回答が80%以上。 ○全教員での積極的活用	B	○授業評価アンケートの結果はおおむね肯定的である。活動報告書や学習実態調査においてICTの活用は行えている。	B	○授業評価アンケートではほとんどの科目で肯定的な意見が80%を越えている。 ○活動報告書や学習実態調査等にもICTを効果的に活用できた。	○進路スケジュールの把握や志望理由書の添削など、進路面でICTを効果的に活用する。
	1年次	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。	B	○アンケートの結果はおおむね肯定的である。全ての科目ではないが学び合いの時間を割けている授業も多く見られる。	B	○年度末アンケートについては教科によってばらつきがあるが、多くの科目で肯定的な回答が80%を超えている。 ○後期は学習グループを設定させ、グループで学習意欲の向上に取り組んだ。	○ICTでの学習活動と授業内での活用の棲み分け。
2 資質・能力の育成を基盤とした授業改善を進め、個別最適な指導を行う。	3年次	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。	B	○アンケートの結果はおおむね肯定的であるが、科目によっては表現や学び合いの要望もうかがえる。	A	○ほとんどの科目で肯定的な回答が80%を超えており、90%から100%の科目も多くあった。	○学び合いや表現活動による良好な授業への取り組みと充実した家庭学習との連結。
	2年次	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。	B	○授業評価アンケートの結果はおおむね肯定的である。さらなる授業改善に向け取り組みたい。	B	○ほとんどの科目で肯定的な回答が80%を越えている。	○ペアワークやグループワークを効果的に活用し、主体的な学びの空間をつくる。 ○家庭学習と授業のつながりを持ち学習時間を増加させる。
	1年次	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上である。	B	○昼休みの時間を活用した取り組みや個別添削を9月以降実施している。 ○長期休業中の学習時間についてガントチャート(学習時間集計表)を付けさせ、自身の取り組みを見直すきっかけを作っている。	B	○年度末アンケートについては教科によってばらつきがあるが、多くの科目で肯定的な回答が80%を超えている。 ○後期は学習グループを設定させ、グループで学習意欲の向上に取り組んだ。	○家庭学習時間の伸長。
3 生徒自身が主体的、計画的に取り組む活動等を展開する。	生徒課	○2~3ヶ月に1回程度、生徒会の会議を実施する。 ○生徒会サポーターを1・2年併せて20名募集する。	B	○1ヶ月に1回は生徒会の会議が実施できている。 ○現在生徒会サポーターは5名しかいないが、生徒へのインタビューや体育祭での記録など、生徒会役員と共に精力的に活動できている。	B	○生徒会会議で取り組みを話し合い、全校生徒対象にアンケートを取るなど主体的な活動ができた。 ○生徒会サポーターは少人数だったが、行事において役員のサポートをし、記録を残したり清掃活動をしたりなど精力的に活動した。	○新たな取り組みについて計画をきちんと立てさせる。

重点目標	関係分掌	評価基準(評価可能数値)	中間評価	中期進捗状況	年度末評価	年度末達成状況	新年度への課題
4 生徒自身が社会との関わりの中で、自らの生き方を考え進路を実現することができる。	進路指導課	○進路決定満足度調査 満足・やや満足90%以上	B	○今未来手帳は1年次生だけの採用である。生徒によって使用状況にばらつきはあるが、今後も使用を呼びかけていく。 ○面談については、各学年で計画的に行われ進路意識の向上につながっている。	B	○進路決定満足度調査は2月20日に実施予定	○この時期の調査に間に合わないで別の評価基準に変更することも検討する。
	3年次	○国公立大学合格者数20名以上。	B	○担任面談を中心として、進路指導課により計画的に進められている。	B	○総合型選抜や学校推薦型選抜の準備は担任を中心に他学年の先生方のご協力を得て、面接や小論文等の指導が十分に行え、生徒の成長に繋がった。	○総合型選抜や学校推薦型選抜の全体像の把握が遅く、個別指導の追加依頼が相次いだ。入試プランの早期決定と情報共有が必須。保護者との連携を密にしておくことも重要。
5 「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携や姉妹校との国際交流などを通じて生徒の豊かな人間性を育成する。	教務課	○林野高校で学びたいという小中学生が増え、定員を充足することができる。	B	○オープンスクールでは林野高生との交流や生徒会による学校説明は97%以上の満足度があった。Meetでの説明は声が聞きずらかったり、映像が見にくかったという意見があった。	B	○オープンスクールをはじめとする広報活動は係を中心に時機を見て行うことができた。 ○進学希望状況調査の結果は思わしくない。	○オープンスクールや学校説明会以外の広報活動の実施 ○他校の取り組みの研究 ○林野高校を希望する小中学生がさらに増えるよう方策を検討し、実施する。
	進路指導課	○ニュースレターへの掲載、ホームページの記事を随時更新する	B	○進路行事など適切に発信できている。	A	○教務課の先生方に大変お世話になり、効果的な発信ができています。	○進路指導課としては、あまり積極的に関わっていないので、次年度からは外したい。
6 組織的で効率的な学校経営や個人の意識改革を進め、負担軽減を図る。	運営委員会	○毎週1回(月4回)の実施。	B	○予定通り実施できている。今後も、効率の良い運営を目指していきたい。	B	○月曜が休日の時や大きな行事が入ったとき以外はほぼ毎週開催し、課題に応じて適宜検討することができた。	○更に効率の良い運営を進める。
	教務課	○分掌の業務を精査し、外部発注も含めて業務の無理や無駄を減少させる。	B	○週1回の教務課会議を開くことで、教務としての仕事を共有し、一人だけで仕事を抱え込まないようにできている。	A	○週1回の会議を開き情報を共有しながら効率よく業務を進めることができた。	○業務の見通しを立てるために、年間計画票を作成する。 ○各業務の担当が代わっても困らないように、記録やマニュアルをデータとして残して活用する。 ○広報の印刷や仕分けを会議の時にでも時間を作る。
	生徒課	○課会が時間内に終わる。 ○毎週金曜日に会議や研修が設定されない。	B	○課会はスムーズに進行でき、時間内に終わらせることができています。また、忙しくて会議室に來られない場合もMeetをつないで参加していただくことで、会議内容を共有できている。	A	○課会ではしっかりと意見交換ができ、Meetを活用したり、課会以外でも臨機応変に話し合いの場がもてたことで、迅速に対応することができた。	○業務の記録をきちんと残す。
	進路指導課	○教員アンケートで満足度80%以上	B	○面談記録の集約についてはできている。今年度末に年度を超えた面談記録を可能にしたい。	A	○学校自己評価アンケート「項目20 学校は、教職員が勤務しやすい体制を取っている。」肯定率80%	○面談記録による情報共有ができています。年度を超えて生徒情報が共有できるよう継続したい。
	3年次	○年次団会は必要に応じて無理なく開催している。	B	○朝礼シートや進路指導室内での連絡・掲示によって情報共有が図れている。	A	○朝礼シートの「生徒向け連絡事項」の学年・クラス欄が有益だった。学年全体や他クラスの状況を窺い知ることができた。	○「生徒向け連絡事項」使用のある程度のルールづくり。
	2年次	○年次団全員が共有し、活用できる。 ○年次団行事や年次団指導が年間を通して無理なく計画できている。	B	○朝礼シートや、長期休業中の検温の調査にもGoogle Workspaceを活用し効率的に業務を行えた。STやLHRにおいても計画を立て実施している。	B	○Google Workspaceを効果的に活用し、効率的な作業が行えた。 ST・LHRも年間の計画に従い、見通しを持って活動できた。	○進路面への効果的な活用
	1年次	○放課後会議は原則行わない。	B	○面談記録をドライブ上に共有しており、他クラスの様子や生徒の実態などを把握できている。	B	放課後の会議を年間で2回実施した。(生徒の情報共有と学年の目標設定のため)	○1回は担任からの申し出、2回目は主任主導で実施した。回数にこだわることではなく、適切なタイミングであれば良いと感じた。

* 評価は... A:達成 B:ほぼ達成 C:達成がまだ不十分